

# JCMAS

社団法人 日本建設機械化協会規格

## 除雪ドーザ — 仕様書様式

JCMAS F 014 : 1998

平成10年3月17日 制定

社団法人 日本建設機械化協会 標準化会議 審議



## まえがき

この規格は、社団法人日本建設機械化協会規格（JCMAS）並びに標準化推進に関する規定に基づいて、標準化会議の審議を経て会長が制定した社団法人日本建設機械化協会規格である。

この規格の一部が、技術的性質を持つ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。社団法人日本建設機械化協会の会長及び標準化会議は、このような技術的性質を持つ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案出願にかかわる確認について、責任をもたない。

---

初版制定：平成10年3月17日  
解説追加及び誤記訂正：平成10年11月

# 除雪ドーザ — 仕様書様式

## Snow removing wheel-type tractor-dozers — Standard form of specifications

1. **適用範囲** この規格は、除雪ドーザ（以下、ドーザという。）の仕様書の様式及び記入要領について規定する。

2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む）を適用する。

JIS A 8420-1 土工機械 — トラクタ — 第1部：用語及び仕様項目

JIS A 8421-1 土工機械 — ロータ — 第1部：用語及び仕様項目

JIS D 0102 自動車用語

JIS D 5301 自動車用鉛蓄電池

JIS K 2202 自動車ガソリン

JIS K 2204 軽油

3. **用語の定義** この規格で用いる主な用語の定義は、JIS D 0102、JIS A 8420-1 及び JIS A 8421-1 によるほか次による。

### 3. 1 全般

3. 1. 1 **除雪ドーザ** スノープラウを車両前方に取りつけたホイール式トラクタドーザ、又はホイールローダのバケットの代わりにスノープラウをつけたもの。

3. 1. 2 **車体** 除雪ドーザからスノープラウを除いたもの。

3. 1. 3 **スノープラウ** 車両前方に装着され、主に新雪除雪、圧雪除雪等に使用する。路面に対する切削角と進行方向に対する傾き（アングル角）を持ったすき（犁）状除雪装置（プラウ）の総称で、プラウの形状によりワンウェイプラウ、アングリングプラウ、Vプラウ、はん（汎）用プラウ等がある。

3. 1. 4 **振動抑制装置** 車両の走行時に作業装置の上下運動からくる振動を抑制し、乗り心地を向上させる装置。

### 3. 2 質量

3. 2. 1 **運転質量** 規定量の燃料、潤滑油、作動油及び冷却水を搭載した本体に、製造業者が指定するエクイップメント、スノープラウ並びに携行工具その他の附属品、キャブなどを装備し、乗車定員(1名当り 55 kg)<sup>(1)</sup>を含む質量。

注<sup>(1)</sup> 道路運送車両の保安基準第1条にて、乗車定員1名の重量は55 kg（質量）とされている。

3. 2. 2 **機械質量** 運転質量から乗車定員を除いた質量。

### 3. 3 性能

3. 3. 1 **除雪幅** ドーザの一行程で除雪できる有効幅。

3. 3. 2 **除雪高さ** 除雪可能な雪の深さ<sup>(2)</sup>。

注(2) プラウの曲面中心の高さで示す。

**3. 3. 3 カuttingエッジ下端の最大地上高さ** スノープラウを最も上げ、プラウをストレート、ピッチ（前傾／後傾）しない状態でのカuttingエッジ下端の地面からの高さ。

サイドスライド装置及びチルト調整装置付のドーザは、サイドスライド及びチルトをそれぞれ中立にする。

**3. 3. 4 カuttingエッジ下端の最大地下深さ** スノープラウを最も下げ、プラウをストレート、ピッチ（前傾／後傾）しない状態でのカuttingエッジ下端の地面からの深さ。

サイドスライド装置及びチルト調整装置付のドーザは、サイドスライド及びチルトをそれぞれ中立にする。

**3. 3. 5 切削角** プラウをストレートにし、ピッチ（前傾／後傾）することなく水平に位置した姿勢におけるプラウのカuttingエッジ面と地面のなす角度。

**4. 仕様書の様式** 仕様書の様式は、付表 1 による。ただし、目的に応じて追加又は省略することができる。

**5. 仕様書記入要領** 仕様書記入の順序及び記入要領は、次による。

**5. 1 車両形式名称** ドーザの呼び方に用い、製造業者略称、形式名、車両名称の順序に記入する。

**5. 2 製造業者名** 製造業者名を記入する。

**5. 3 質量及び質量配分** 質量及び質量配分は、次の項目について記入する。

**5. 3. 1 運転質量** 3. 2. 1 の値を記入する。

**5. 3. 2 機械質量** 3. 2. 2 の値を記入する。

**5. 3. 3 質量配分** 運転質量状態・プラウをストレートにした走行姿勢で前輪及び後輪に配分される質量を記入する。

**5. 4 寸法** 寸法は、次の項目について記入する。

**5. 4. 1 全長（ストレート時）** スノープラウを地上に置き、ピッチ（前傾／後傾）させずプラウをストレートにした状態におけるドーザの最大長さを記入する。

**5. 4. 2 全長（最大アングル時）** スノープラウを地上に置き、ピッチ（前傾／後傾）させずプラウを最大アングルにした状態におけるドーザの最大長さを記入する。

**5. 4. 3 全幅（車体単体）** スノープラウを除いた車体の最大幅を記入する。

**5. 4. 4 全幅** スノープラウのプラウをストレートにした状態におけるドーザの最大外側幅を記入する。

**5. 4. 5 全高** スノープラウを地上に降したときのドーザ最高部の高さを記入し、その部位を併記する。

なお、キャブに黄色回転灯が付いている場合はその旨を付記し、黄色回転灯上部までの高さを記入する。

**5. 4. 6 軸距** 前後車軸間の水平中心距離を記入する。

**5. 4. 7 輪距（前輪）** 前車輪の左右タイヤの接地面での中心距離を記入する。

**5. 4. 8 輪距（後輪）** 後車輪の左右タイヤの接地面での中心距離を記入する。

**5. 4. 9 最低地上高さ** スノープラウを上昇した場合の車両のほぼ中心線付近における最低部の地表面からの高さを記入し、その箇所を付記する。

**5. 4. 10 前オーバーハング（走行姿勢 ストレート時）** 前車輪中心を通り、縦中心に直角な鉛直面から、スノープラウをピッチ（前傾／後傾）させずプラウをストレートにした走行姿勢の状態に

おけるドーザの最前部までの水平距離を記入する。

**5. 4. 1 1 前オーバハング (走行姿勢 最大アングル時)** 前車輪中心を通り、縦中心に直角な鉛直面から、プラウを最大アングルにした走行姿勢<sup>(3)</sup>の状態におけるドーザの最前部までの水平距離を記入する。

注<sup>(3)</sup> ドーザの回送に適するスノープラウを保持した姿勢で、プラウのカッティングエッジ下端をほぼ最低地上高さにした姿勢。

**5. 4. 1 2 後オーバハング** 後車輪中心を通り、縦中心に直角な鉛直面からドーザの最後部までの水平距離を記入する。

**5. 5. 性能** 性能は、次の項目について記入する。

**5. 5. 1 除雪幅** 3. 3. 1 の値を記入する。

**5. 5. 2 除雪高さ** 3. 3. 2 の値を記入する。

**5. 5. 3 走行速度** 無負荷状態で、平坦な直線乾燥舗装路を前進及び後進するときの各速度段における最高速度を記入する。

**5. 5. 4 最大けん引力** 平坦な直線乾燥舗装路において、車両の出し得る最大のけん引力を記入する。

**5. 5. 5 登坂能力** 登坂可能な最大傾斜角の正接の値を記入する。

**5. 5. 6 最小回転半径** 前進回転時において、十分に低い速度、最大かじ取り角で回転したときの車体外側部、プラウをストレートにした走行姿勢におけるスノープラウの最外側部の回転半径を記入する。

**5. 6 乗車定員** 乗車できる乗員数を記入する。

**5. 7 エンジン** エンジンは、次の項目について記入する。

**5. 7. 1 名称** 製造業者略称、呼び名、種類の順序に記入する。

**5. 7. 2 形式** サイクル、冷却方式、シリンダ配置、燃焼室形式、過給方式などの順序に記入する。

**5. 7. 3 シリンダ数-内径×行程** ミリメートル (mm) の単位で記入する。

**5. 7. 4 総行程容積** 単位はリットル (ℓ) とし 0.01 の単位で記入する。

**5. 7. 5 性能** ドーザに装着する状態での性能をいう。

a) **定格回転速度** 毎分回転数 ( $\text{min}^{-1}$ ) の単位で記入する。

b) **定格出力** 定格回転速度における出力 (kW) を記入する。

c) **最大トルク** ニュートンメートル (N・m) の単位で記入し、そのときの回転速度を付記する。

d) **燃料消費率** 定格出力における燃料消費率 (g/kW・h) を記入する。

**5. 7. 6 燃料系統**

a) **燃料** JIS K 2204, JIS K 2202 などによる種類を記入する。

b) **調速機** 遠心式・空気式・油圧式などの別、オールスピード式・最高最低式などの別を記入する。

**5. 7. 7 潤滑系統**

a) **潤滑方式** はねかけ式・ポンプ圧送式などの別を記入する。

b) **ろ過方式** フルフロー式・バイパス式などの別を記入する。

c) **冷却方式** 空冷式・水冷式などの別を記入する。

**5. 7. 8 空気清浄器** 遠心式・油槽式・ろ紙式などの別を記入する。

**5. 7. 9 冷却方式** ファンの吸込み式・押し出し式の別、放熱器の加圧式・開放式の別などを記入

する。

5. 7. 10 **充電発電機** 直流・交流の別，電圧及び出力を記入する。

5. 7. 11 **始動方式** 始動電動機について記入する。

a) **始動電動機** 電圧，出力を記入する。

5. 7. 12 **蓄電池** JIS D 5301 などによる種類，電圧，容量及び個数を記入する。

5. 8 **伝動系統** 伝動順序に従い，その装置について記入する。

5. 8. 1 **伝動方式** 機械式又は油圧式の別を記入する。

5. 8. 2 **トルクコンバータ**

a) **名称** 製造業者名又はその略称及び呼び名を記入する。

b) **形式** 要素数，段数，相数などを記入する。

c) **ストールトルク比**

d) **冷却方式** 冷却方式を記入する。

5. 8. 3 **変速機**

a) **形式** 歯車式・ベルト式・ハイドロスタティック式などの別，変速方式（滑りかみ合い式・常時かみ合い式・等速かみ合い式・プラネタリ式などの別）及び操作形式（手動式・油圧作動式・電気作動式などの別）を記入し，潤滑方式（はねかけ式・ポンプ圧送などの別）を付記する。

なお，オートシフト付であるときはその旨を付記する。

b) **変速段数** 前進，後進の各速度段数を記入する。

5. 8. 4 **変速機及び差動機** 歯車式・チェーン sprocket 式などの別，歯車形式，段数などを記入し，潤滑方式（はねかけ式・ポンプ圧送式などの別）を付記する。

なお，差動制限装置のあるものは，その形式を記入する。

5. 8. 5 **終減速機** 歯車式・チェーン sprocket 式などの別，歯車形式，段数などを記入し，潤滑方式（はねかけ式・ポンプ圧送式などの別）を付記する。

5. 9 **車軸および車輪** 車軸および車輪は，次の項目について記入する。

5. 9. 1 **駆動形式** 前輪駆動・後輪駆動・全輪駆動の別を記入する。

5. 9. 2 **前車軸** 懸架方式及び構造形式を記入する。

5. 9. 3 **後車軸** 懸架方式及び構造形式を記入する。

5. 9. 4 **タイヤ** タイヤの種類，タイヤサイズ，数及び標準空気圧を記入する。

5. 10 **ブレーキ装置** ブレーキ装置は，次の項目について記入する。

5. 10. 1 **走行ブレーキ** 形式（全輪制動・前後輪制動の別及び倍力装置の有無），構造（内括式ドラム・外部収縮式ドラム又はバンド・ディスク式の別，単板・複板及び湿式・乾式の別），作動形式（真空油圧式・空気式・空気油圧式・機械式の別）及び操作形式（手動式・足踏み式などの別）を記入する。ただし，兼用の場合はその旨を記入する。

5. 10. 2 **駐車ブレーキ** 形式（前輪制動・推進軸制動などの別），構造（内括式ドラム・外部収縮式ドラム又はバンド・ディスク式の別，単板・複板・多板及び湿式・乾式の別）及び操作形式を記入する。ただし，兼用の場合はその旨を記入する。

5. 10. 3 **非常ブレーキ** 形式，構造，作動形式及び操作形式を記入する。ただし，兼用の場合はその旨を記入する。

5. 11 **かじ取り装置** かじ取り装置は，次の項目について記入する。

5. 11. 1 **形式** 前輪かじ取り式・後輪かじ取り式・全輪かじ取り式・アーティキュレート式などの別を記入する。

5. 1 1. 2 **構造** 機械式・パワーステアリング・ブースタ付きなどの別を記入する。パワーステアリングの場合、フォローアップリンケージ式・全油圧式などの別を記入する。

また、アーティキュレート式については、左右屈折角・シリンダ数などを記入する。

5. 1 2 **運転室** 運転室の次の項目について記入する。

5. 1 2. 1 **構造** 主要構造材による構造形式を記入する。

5. 1 2. 2 **室内寸法** 運転室の内法寸法を縦×横×高さで記入する。

5. 1 2. 3 **窓** 前中央，前側（左右），側（左右），後についてガラスの種類（合せガラス・強化ガラス・熱線入り合せガラスの別）を記入する。

5. 1 3 **振動抑制装置** 振動抑制装置付の有無を記入する。

5. 1 4 **スノープラウ** スノープラウは，次の項目について記入する。

5. 1 4. 1 **形式** スノープラウの形式（アングリングプラウ式・サイドスライドアングリングプラウ式・汎用プラウ式などの別）を記入する。

5. 1 4. 2 **質量** スノープラウの質量を記入する。

5. 1 4. 3 **全幅** ストレート状態におけるスノープラウ（カッティングエッジを含む）の全幅を記入する。

5. 1 4. 4 **全高** カッティングエッジ下端からの円筒曲面板上端までの高さを記入する。

5. 1 4. 5 **そり** そりの形状，個数を記入する。

5. 1 4. 6 **能力** 能力は次の項目について記入する。

a) カッティングエッジ下端の最大地上高さ 3. 3. 3の値を記入する。

b) カッティングエッジ下端の最大地下深さ 3. 3. 4の値を記入する。

c) 切削角 3. 3. 5の値を記入する。

d) アングル角 左右各々の最大アングル角を記入する。

e) ピッチ プラウをストレートにし，プラウのカッティングエッジ下端が地上に接した状態における中立から前傾及び後傾させた時の各々の最大作動角度を記入する。

f) スライド量 プラウのスライド量（中立から左右各々の方向への移動量）の最大量を左右各々について記入する。

g) チルト量 プラウの左右各々の最大チルト量を記入する。（ただし，チルト調整装置付に限る）

h) 上昇時間 ドーザを地面に置き，プラウをストレート，ピッチ（前傾／後傾）しない状態<sup>(4)</sup>にし，地面からスノープラウが最高位置まで達する時間を記入する。

注<sup>(4)</sup> チルト角が調整できる機種は，路面横断面勾配にあわせた状態とする。

5. 1 5 **油圧装置** 油圧装置は，次の項目について記入する。

5. 1 5. 1 **油圧ポンプ** 構造形式及び吐出し量を記入し，その回転速度と圧力を併記する。

5. 1 5. 2 **操作弁** 構造形式及び操作方法を記入し，リリーフ弁のあるものは，その設定圧を併記する。

5. 1 5. 3 **油圧シリンダ** ドーザに使用されている油圧シリンダの構造形式（ラム式・ピストン式及び単動・複動の別）及び本数，内径，行程を記入する。

5. 1 6 **操縦装置** 操縦装置は，次の項目について記入する。

5. 1 6. 1 **操作レバー及びペダル類** 操向ハンドル，操作レバー及びペダル類の名称と数を記入する。

5. 1 6. 2 **計器類** 名称，電圧，容量及び数を記入する。

5. 1 6. 3 **照明装置** 名称，電圧，容量及び数を記入する。

5. 16. 4 その他 運転に必要な警報器、後写鏡などの名称と数を記入する。
5. 17 けん引装置 構造形式（ピン式・かぎ式・固定式など）及びけん引具中心の地面からの高さを記入する。
5. 18 水・油類の種類及び容量 複数装置で併用する場合は、その合計規定量を、主油タンクをもつ装置の欄に記入し、その各装置名を付記する。
- a) 冷却水 放熱器、エンジンなどを含めた容量を記入する。
  - b) 燃料タンク 燃料タンクの規定容量を記入する。
  - c) エンジンオイルパン 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - d) トルクコンバータ 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - e) 変速機 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - f) 減速機及び差動機 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - g) 終減速機 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - h) かじ取り装置 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - i) ブレーキ装置 使用油の種類及び規定量を記入する。
  - j) 油圧装置 作動油の種類及び規定容量を記入する。
5. 19 附属品及び附属工具 附属品及び附属工具の名称（標準工具など）と数を記入する。
5. 20 その他 その他必要な事項を記入する。

---

関連規格	JIS A 8303	土工機械－ホイール式機械の回転半径測定方法
	JIS A 8309	土工機械－けん引力測定方法
	JIS A 8420-2	土工機械 － トラクタ － 第2部：仕様書様式及び性能試験方法
	JIS A 8421-2	土工機械 － ロータ － 第2部：仕様書様式及び性能試験方法
	JIS D 0001	自動車の仕様書様式
	JIS D 0006	建設機械用ディーゼルエンジンの仕様書様式及び性能試験方法
	JIS D 0101	自動車の種類に関する用語
	JIS D 1007	建設機械及び産業車両用流体トルクコンバータ性能試験方法
	JIS Z 8401	数値の丸め方
	JCMAS F 013	除雪グレーダー仕様書様式
	JCMAS T 005	除雪グレーダー性能試験方法
	JCMAS F 013	除雪トラック仕様書様式
	JCMAS T 006	除雪トラック性能試験方法
	JCMAS T 007	除雪ドーザー性能試験方法
	JCMAS F 015	凍結防止剤散布車仕様書様式
	JCMAS T 008	凍結防止剤散布車性能試験方法

付表1 除雪ドーザー仕様書様式



車両形式名称 \_\_\_\_\_

製造業者名 \_\_\_\_\_

質量及び質量配分

運転質量（道路走行） \_\_\_\_\_ kg

機械質量 \_\_\_\_\_ kg

質量配分（運転質量（道路走行）） 前輪 \_\_\_\_\_ kg 後輪 \_\_\_\_\_ kg

寸法

全長（ストレート時） \_\_\_\_\_ m

全長（最大アングル時） \_\_\_\_\_ m

全幅（車体単体） \_\_\_\_\_ m

全幅（ストレート時） \_\_\_\_\_ m

全高 \_\_\_\_\_ m

軸距 \_\_\_\_\_ m

輪距（前輪） \_\_\_\_\_ m

輪距（後輪） \_\_\_\_\_ m

最低地上高さ \_\_\_\_\_ m

前オーバハング（走行姿勢 ストレート時） \_\_\_\_\_ m

前オーバハング（走行姿勢 最大アングル時） \_\_\_\_\_ m

後オーバハング \_\_\_\_\_ m

性能

除雪幅 \_\_\_\_\_ m

除雪高さ \_\_\_\_\_ m

走行速度 前進 1 速 \_\_\_\_\_ km/h

前進 2 速 \_\_\_\_\_ km/h

前進 3 速 \_\_\_\_\_ km/h

前進 4 速 \_\_\_\_\_ km/h

後進 1 速 \_\_\_\_\_ km/h

後進 2 速 \_\_\_\_\_ km/h

後進 3 速 \_\_\_\_\_ km/h

後進 4 速 \_\_\_\_\_ km/h

最大けん引力 \_\_\_\_\_ N

登坂能力（ $\tan \theta$ ） \_\_\_\_\_

最小回転半径 車体最外側 \_\_\_\_\_ m

スノープラウ最外側部 \_\_\_\_\_ m

乗車定員 \_\_\_\_\_ 人

エンジン

名称 \_\_\_\_\_

形式 \_\_\_\_\_

シリンダ数－内径×行程 \_\_\_\_\_ mm× \_\_\_\_\_ mm

総行程容積 \_\_\_\_\_ ℓ

付表 1 除雪ドーザ仕様書様式（続き）

## 性能

定格回転速度 \_\_\_\_\_  $\text{min}^{-1}$ 定格出力 \_\_\_\_\_  $\text{kW}$ 最大トルク \_\_\_\_\_  $\text{N}\cdot\text{m}$  ( \_\_\_\_\_  $\text{min}^{-1}$ において)燃料消費率 (定格出力) \_\_\_\_\_  $\text{g}/\text{kW}\cdot\text{h}$ 

## 燃料系統

燃料 \_\_\_\_\_

調速機 \_\_\_\_\_

## 潤滑系統

潤滑方式 \_\_\_\_\_ 式

ろ過方式 \_\_\_\_\_ 式

冷却方式 \_\_\_\_\_ 式

空気清浄器 \_\_\_\_\_ 式

冷却方式 ファン \_\_\_\_\_ 式 放熱器 \_\_\_\_\_ 式

充電発電機 交流・直流の別 \_\_\_\_\_  $\text{V}$  \_\_\_\_\_  $\text{kW}$ 

## 始動方式

始動電動機 \_\_\_\_\_  $\text{V}$  \_\_\_\_\_  $\text{kW}$ 蓄電池 形式 \_\_\_\_\_  $\text{V}$  \_\_\_\_\_  $\text{A}\cdot\text{h}$  \_\_\_\_\_ 個

## 伝動系統

伝動方式 \_\_\_\_\_ 式

トルクコンバータ \_\_\_\_\_

名称 \_\_\_\_\_

形式 \_\_\_\_\_

ストールトルク比 \_\_\_\_\_

冷却方式 \_\_\_\_\_

## 変速機

形式 \_\_\_\_\_

変速度段数 \_\_\_\_\_

減速機及び差動機 \_\_\_\_\_

終減速機 \_\_\_\_\_

## 車軸及び車輪

駆動形式 \_\_\_\_\_

前車軸 \_\_\_\_\_

前車輪 車輪数 \_\_\_\_\_ タイヤの種別 \_\_\_\_\_ サイズ \_\_\_\_\_ - -  $\text{PR}$  標準空気圧 \_\_\_\_\_  $\text{kPa}$ 

後車軸 \_\_\_\_\_

後車輪 車輪数 \_\_\_\_\_ タイヤの種別 \_\_\_\_\_ サイズ \_\_\_\_\_ - -  $\text{PR}$  標準空気圧 \_\_\_\_\_  $\text{kPa}$ 

## ブレーキ装置

走行ブレーキ \_\_\_\_\_

駐車ブレーキ \_\_\_\_\_

非常ブレーキ \_\_\_\_\_

付表 1 除雪ドーザ仕様書様式 (続き)

## かじ取り装置 \_\_\_\_\_

形式 \_\_\_\_\_

構造 \_\_\_\_\_

## 運転室

構造 \_\_\_\_\_

室内寸法 縦 \_\_\_\_\_ mm × 横 \_\_\_\_\_ mm × 高さ \_\_\_\_\_ mm

窓 \_\_\_\_\_

## 振動抑制装置 \_\_\_\_\_

## スノープラウ

形式 \_\_\_\_\_

質量 \_\_\_\_\_ kg

全幅 \_\_\_\_\_ mm

全高 \_\_\_\_\_ mm

そり \_\_\_\_\_

## 能力

カッティングエッジ下端の最大地上高さ \_\_\_\_\_ mm

カッティングエッジ下端の最大地下深さ \_\_\_\_\_ mm

切削角 \_\_\_\_\_ 度

アングル角 左 \_\_\_\_\_ 度 右 \_\_\_\_\_ 度

ピッチ 前傾 \_\_\_\_\_ 度 後傾 \_\_\_\_\_ 度

スライド量 左 \_\_\_\_\_ mm 右 \_\_\_\_\_ mm

チルト量 左 \_\_\_\_\_ mm 右 \_\_\_\_\_ mm

上昇時間 \_\_\_\_\_ s

## 油圧装置

油圧ポンプ \_\_\_\_\_ ℓ/min ( \_\_\_\_\_ min<sup>-1</sup> Paにおいて)

操作弁 \_\_\_\_\_ (設定圧 Pa)

油圧シリンダ \_\_\_\_\_ — \_\_\_\_\_ mm × \_\_\_\_\_ mm

\_\_\_\_\_ — \_\_\_\_\_ mm × \_\_\_\_\_ mm

\_\_\_\_\_ — \_\_\_\_\_ mm × \_\_\_\_\_ mm

\_\_\_\_\_ — \_\_\_\_\_ mm × \_\_\_\_\_ mm

## 操縦装置

操縦レバー及びペダル類 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

計器類 \_\_\_\_\_

照明装置 \_\_\_\_\_

その他 \_\_\_\_\_

けん引装置 \_\_\_\_\_ 高さ \_\_\_\_\_ mm

付表 1 除雪ドーザ仕様書様式 (続き)

**水・油類の種類及び容量**

冷却水	全容量		ℓ
燃料タンク	規定量		ℓ
エンジンオイルパン	使用油の種類	規定量	ℓ
トルクコンバータ	使用油の種類	規定量	ℓ
変速機	使用油の種類	規定量	ℓ
減速機及び差動機	使用油の種類	規定量	ℓ
終減速機	使用油の種類	規定量	ℓ
かじ取り装置	使用油の種類	規定量	ℓ
ブレーキ装置	使用油の種類	規定量	ℓ
油圧装置	使用油の種類	規定量	ℓ
<b>附属品及び附属工具</b>			
<b>その他</b>			

JCMAS F 014 : 1998

# 除雪ドーザ — 仕様書様式 解説

この解説は、本体に規定・記載した事柄、並びにこれらに関連した事柄を説明するもので、規格の一部ではない。

## 1. 制定の趣旨及び経緯

1. 1 制定の趣旨 この規格は、除雪ドーザ性能試験方法（JCMAS T 007）と対になるもので、製造業者及び購入者が仕様書を作成する際に、用語、記載項目、記入要領について統一するために作成した。この規格の作成にあたり JIS A 8421-1（土工機械—ローダ—第1部：用語及び仕様項目）及び JIS A 8421-2（土工機械—ローダ—第2部：仕様書様式及び性能試験方法）の本体部分、並びに JIS A 8420-1（土工機械—トラクタ—第1部：用語及び仕様項目）及び JIS A 8420-2（土工機械—トラクタ—第2部：仕様書様式及び性能試験方法）の本体部分を基本としつつ、除雪ドーザとして固有の事項を含め、とりまとめたものである。

1. 2 制定の経緯 この規格の原案は、平成8～9年度に社団法人日本建設機械化協会の機械部会除雪機械技術委員会で審議し作成された。次いで、この原案を基にして同協会規格部会規格委員会の審議を経て、規格部会運営連絡会より同協会標準化会議に提出され、審議の結果、平成10年3月17日付けで制定された。

2. 審議中特に問題となった事項（本体の3. 2. 1） 運転質量に含む乗車定員1人あたりの質量は、土工機械の JIS A 8421-1 及び JIS A 8421-2，並びに JIS A 8420-1 及び JIS A 8420-2 では 75 kg であるが、除雪ドーザは車検登録をして公道を走行するので、道路運送車両の保安基準第1条に規定の 55 kg とした。但し、この値は、日本人の体位向上を反映させる必要があるとの意見があった。

3. 適用範囲（本体の1.） 除雪ドーザにはクローラ式も含まれるが、現在ではホイール式が一般であるため、この規格ではクローラ式については除外した。

## 4. 各構成要素の内容

4. 1 用語の定義の根拠（本体の3.） 次の用語は、社団法人日本建設機械化協会機械部会除雪機械技術委員会が作成した“除雪機械の用語（平成7年3月）”を根拠とし、必要により表現を修正して定義を記述した。

- a) スノープラウ（本体の3. 1. 3）
- b) 振動抑制装置（本体の3. 1. 4）
- c) 除雪幅（本体の3. 3. 1）
- d) 除雪高さ（本体の3. 3. 2） “除雪機械の用語”を参考に、プラウの曲面中心の高さで示す。これは、除雪可能な雪の深さは雪質、作業環境、運転操作などにより変化し、定量的な値を定めることが難しいためである。
- e) カuttingエッジ下端の最大地上高さ（本体の3. 3. 3） “除雪機械の用語”の“切刃最大地上高さ”を一般的な用語“カuttingエッジ下端の最大地上高さ”に読み換えた。

- f) カuttingエッジ下端の最大地下深さ（本体の3. 3. 4） “除雪機械の用語” の “切刃最大地下深さ” を一般的な用語 “カuttingエッジ下端の最大地下深さ” に読み換えた。
- g) 除雪幅（本体の3. 3. 5）

5. 原案作成委員会の構成表 原案作成委員会の構成表を、次に示す。

原案作成委員会（社団法人日本建設機械化協会機械部会除雪機械技術委員会）構成表

	氏名	所属
(委員長)	新田 恭士	建設省 建設経済局 建設機械課
	小池 暢一	いすゞ自動車 株式会社
	甲斐 賢	岩崎工業 株式会社
	宮西 三喜男	開発工建 株式会社
	関口 徳康	株式会社 加藤製作所
	上見 弘	川崎重工業 株式会社
	本吉 毅	極東開発工業 株式会社
	前中 重雄	株式会社 神戸製鋼所
	村岡 征	株式会社 小松エスト
	岩崎 通夫	株式会社 小松製作所
	仲田 良輔	新キャタピラー三菱 株式会社
	窪 俊和	東洋運搬機 株式会社
	中園 裕喜	東洋運搬機 株式会社
	須田 光俊	株式会社 新潟鉄工所
	鈴木 康之	日産ディーゼル工業 株式会社
	関谷 洋一	株式会社 日本除雪機製作所
	野原 以左武	範多機械 株式会社
	三浦 明弘	日立建機 株式会社
	宮寺 敏行	日野自動車工業 株式会社
	小川 治夫	古河機械金属 株式会社
	池田 長司	三菱自動車工業 株式会社
	平郡 秀昭	三菱自動車工業 株式会社
	八幡 光政	三菱重工業 株式会社
	下崎 信二	三菱重工業 株式会社
	秋山 勲	矢崎計器 株式会社
	古屋 勝	マルマテクニカ 株式会社
	門内 正信	社団法人 日本建設機械化協会 建設機械化研究所

以上